



IGFA アングリング・ルール

IGFA ANGLING RULES

このルールは、良識ある健全な釣りの普及を目指し、世界における釣魚の記録保存を可能とする統一基準となり、トーナメントや釣りの各種大会で採用できる基本的なガイドラインを提供するために、インターナショナル・ゲームフィッシュ協会 (IGFA) によって定められたものである。

「釣り」とは、ロッド、リール、ライン、フックのすべてを用いて魚を捕獲すること、あるいはそれを目的とした行為と定義される。ただし規則ではコントロールできない釣りの側面というものはたしかに存在する。どのようなルールを定めようと、フックにかかった魚がすばらしいファイトをするかどうかは分からず、世界記録が樹立されたからといって、その釣りが難しかったかどうかは判断できない。魚がファイトしなかったキャッチ、魚がファイトする機会を与えなかったキャッチは、アングラーの名誉とはならない。それが偉業であったかどうかは、当事者たるアングラー本人のみが正しく評価できるものであろう。

IGFAの認定する世界記録の対象となりうるのは、IGFAルールに従って捕獲された魚のみである。以下は、海と淡水の釣り、オールタックル・レンジスおよびフライフィッシングに関連するIGFAルールである。

☆当ルールブック発行後に追加・訂正された事項については、JGFA NEWS の最新号あるいは JGFA ホームページの記述を参照のこと。

海と淡水のフィッシング・ルール

(オールタックル・レンジスおよびフライフィッシング・ルールも参照)

● 釣具の規定

A. ラインおよびバックキング

1. 使用するフィッシングラインは、モノフィラメント、マルチフィラメント(編み糸)、または、レッドコア・マルチフィラメントのいずれかに限る。ラインクラスについては、「世界記録の必要事項」を参照のこと。
2. ワイヤーラインの使用は禁止される。
3. バックキングの使用は許可される。
4. 使用するラインのクラスは、ダブルライン、リーダーなしフックに接続された先端部分5メートルの破断強度で決定される。このセクションは同一素材のシングルラインであること。

B. ダブルライン

ダブルラインの使用は必須ではないが、使用する場合は以下のとおりとする。

1. ダブルラインは、**フィッシングラインそのものをダブルにしたものでなければならない。**
2. ダブルラインの長さは、ダブルを作っている部分(ノット、編み込み、ロールまたはスプライスなど)の端から、リーダー、ルアー、またはフックなどを取り付けるために使われるノット、スプライス、スナップ、スイベル等の用具のいちばん端までと定義する。

【海水魚】

ダブルラインの長さは、10kg (20lb) 以下のすべてのラインクラスでは4.57m (15フィート) 以内とし、ダブルラインとリーダーの合計長は6.1m (20フィート) 以内であること。10kg (20lb) をこえるすべてのラインクラスでは、ダブルラインの長さを9.14m (30フィート) 以内とし、ダブルラインとリーダーの合計長は12.19m (40フィート) 以内とする。

【淡水魚】

すべてのラインクラスにおいてリーダーは1.82m (6フィート) 以内とし、リーダーとダブルラインの合計長は3.04m (10フィート) 以内であること。

C. リーダー

リーダーの使用は必須ではないが、使用する場合には以下のとおりとする。

リーダーの長さとは、ルアー、フック、または他の用具を含めた全体の長さであり、末端に位置するフックのバンドから測定する。リーダーはスナップ、ノット、スプライス、スイベルまたは他の用具でラインに接続されていること。リーダーを握るための用具類を装着してはならない。リーダーの材質および強度については制限しない。

【海水魚】

リーダーの長さは、10kg (20lb) 以下のすべてのラインクラスでは4.57m (15フィート) 以内とし、リーダーとダブルラインの合計長は6.1m (20フィート) 以内でなければならない。10kg (20lb) をこえるすべてのラインクラスは、リーダーの長さを9.14m (30フィート) 以内とし、リーダーとダブルラインの合計長は12.19m (40フィート) 以内であること。

【淡水魚】

すべてのラインクラスにおいてリーダーは1.82m (6フィート) 以内とし、リーダーとダブルラインの合計長は3.04m (10フィート) 以内であること。

D. ロッド

1. ロッドは、アマチュアとしての釣りの倫理と慣習に従って作られたものでなければならない。ロッドの選択においては相当の自由度が許容されているが、釣り人に不当な利益を与えるようなものは失格となる。この規定は、慣習に従わないロッドの使用を排除するためのものである。
2. ロッドティップの長さは101.6cm (40インチ) 以上、ロッドバットの長さは68.58cm (27インチ) 以内であること。これらの長さは、ロッドに装着したリールの中心点の真下からの直線距離を測るものとする。カーブドバットは、直線距離で末端までの距離を測る。ロッドバットをジンバルに装着したとき、リールシートからジンバルのピボットポイントまでの距離は68.58cm (27インチ) 以内であること。(ただしこの規定はサーフ・キャ

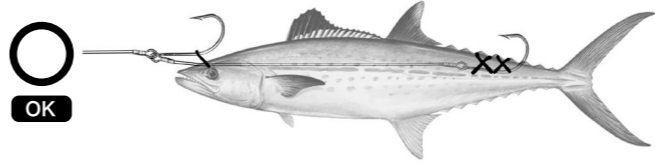
スティング・ロッドには適用しない。)

E. リール

1. リールは、アマチュアとしての釣りの倫理と慣習に従って作られたものでなければならない。
2. 動力を利用するリールは、以下の状況下および仕様に限り許可される。
 - a) 取り外すことができるパワーアクセサリー (たとえば電動ドリル、モーター、ないしリール専用に製造されたアクセサリー) を装着したリールは、釣りのために水中に設置したエサやルアーをボートに回収するためだけに使用できる。
 - b) パワーアクセサリーは、エサやルアーをボートまで完全に回収するためだけに使用し、水中におけるエサやルアーの位置を調整するために使ってはならない。リールにパワーアクセサリーを装着した時点で、以降に掛かった魚はすべてルール違反とみなされるので、ただちにエサやルアーは回収を開始して、船べりまで完全に上げなければならない。再び釣りを開始するためには、パワーアクセサリーを取り外し、手巻き操作によってエサやルアーを再投入する。パワーアクセサリーが装着された状態のまま再投入を行うことは禁止される。
 - c) 魚のフッキング／ファイトイングが起こる前に、パワーアクセサリーは取り外しておかなければならない。リールにパワーアクセサリーが装着された状況下でベイトやルアーにストライクした魚は、そのアクセサリーが実際に使用されていたかどうかに関わらず、記録申請の対象とはならない。
 - d) 取り外すことができる電気関連パーツを備えておらず、完全な手巻きが実現できない電動リールは、使用が禁止される。

F. ベイトフィッシング(エサ釣り)に使用するフック

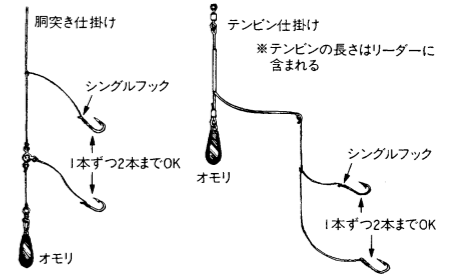
1. 生き餌、または死んだ餌で釣る時は、**シングルフック (1本バリ) を2本まで使用することができる。**この場合、両方のフックは餌の中に埋め込むか、餌にしっかりと固定しなければならない。2本のフックのアイの間隔は、フックの長さ(使用されているフックの大きい方の全長)以上なければいけないが、45.72cm (18インチ) 以上離してはならない。例外として、フックの先端にもう1本のフックのアイを通すことは認められる。フックの後ろに餌あるいは餌とルアーの組み合わせを装着する場合、その先端とフックのバンド後端との間隔はフックの長さぶんを超えてはならない。



2. ダングリングフック*およびスイングフック*の類を使用してはならない。ダブルやトレブルフック (3本イカリバリ) の使用も禁止される。
3. ボトムフィッシングの場合は、シングルフックを2本まで使用することができる。ただし、2本のフックは、別々のリーダーまたはドロップ*で取り付けなければならない。2本のフックは、それぞれの餌に埋め込み、一方のフックにかかった魚が他方のフックに

かからないよう、十分に離しておくこと。

4. フックを2本使用して釣った魚を記録申請する時は、仕掛けのフック配列が分かる写真、またはスケッチを添付すること。



G. フックおよびルアー

1. スカートまたはトレーリング材*を取り付けたルアーには、シングルフックを2本まで、ラインなしリーダーに取り付けて使用することができる。フックは別々に取り付ける必要はない。この場合、2本のフックのアイの間隔は、フックの長さ(使用されているフックの大きい方の全長)以上なければいけないが、30.48cm (12インチ) 以上離してはならない。例外として、フックの先端にもう1本のフックのアイを通すのはかまわない。トレーリングフック(後方のフック)は、ルアーのスカートから全長がはみ出してはならない。フックの後ろにルアー、あるいは餌とルアーの組み合わせを装着する場合、その先端とフックのバンド後端との間隔はフックの長さぶんを超えてはならない。**記録申請時には、フックの配列が分かる写真、またはスケッチが必要である。**
2. ギャングフックは、専用に設計されたプラグまたはルアーに取り付けるときにだけ使用が許される。ルアーに取り付けたギャングフックは、自由に振れ動かなければならない。使用するギャングフックは、3本までに限られる(シングル、ダブル、トレブルのいずれか、または組み合わせ)。魚が掛かったときに自由に振れ動くなら、ギャングフックはルアーに埋め込んだり本体に固定したりすることができる。ギャングフックに餌を取り付けることはできない。**記録申請時にはルアーの写真もしくはスケッチを添付すること。**もしそれが充分でない時はルアーそのものの提出が要求されることもある。

3. モノフィラメント、マルチフィラメント、ワイヤなどの「リード」を介してルアーに接続される、いわゆるアシストフックの類のシングルフックに関しては、以下の規定を遵守すること：スカートなしのルアーにアシストフックを使用する場合、リードの長さは使用するフック長の1.5倍を超えてはならない。またフックのバンド位置は、ルアーと接続される最近点から4インチ (101mm) を超えてはならない。アシストフックとして、ダブルフックやトレブルフックを使うことはできない。また、アシストフックはシングルフックとし、2本のシングルフックをタンデムにして使うことはできない。プラグの場合と同様、1つのルアーに対して最大3本のアシストフックを使うことができる。
4. フックのついたルアーは、1度に1つしか使用できない。

H. その他の用具

1. ファイトイングチェアには、魚とのファイトを有利に導く機械的推進装置を取り付けてはならない。

- ジンバルは、垂直面のみ動くものを含め、自由にスイングすること。魚とファイトしている時、釣り人の負担を軽減したり、休息を可能とするジンバルは禁じられている。
- 魚を取り込む時に使用する**ギャフおよびネットは、全長が2.44m(8フィート)以内であること**。フライングギャフ、脱着式ギャフを使用する場合、**ギャフロープは9.14m(30フィート)以内であること**。ロープは、ヘッドに取り付けられた点から末端までを測るものとする。計測するのは有効長のみで、結び目の余りは長さに含まない。ヘッドの固定されたギャフを使用する場合も同じ制限が適用され、ギャフロープはギャフフックの同じ位置から測る。ギャフは、シングルフックだけが使用できる。モリまたはヤスを使用してはいけない。テイルロープは9.14m (30フィート)までとする(例外として橋、栈橋、その他の高い台や構造物から釣る場合、ギャフないしネットの全長やテイルロープの長さに関する上記制限は適用されない)。
- エンタングリング(魚を絡め取る)用具は、フックの有無にかかわらず禁じられている。ベイトイングまたはフッキング、ファイティング、ランディングを含むいかなる目的のためにも使用してはいけない。
- アウトリガー、ダウンリガー、スプレッダーバーおよびカイトの使用は許可されるが、条件として、それらに装着されたスナップなどのリリース器具に、フィッシングラインが直接的あるいはゴムバンドなどを介して間接的に固定されていなければならない。直接あるいは間接を問わず、リリース器具にリーダーまたはダブルラインを固定することは禁じられる。スプレッダーバーはティーザーとしての使用も許される。
- デジージェーン、バード、フロート(ウキ)もしくはそれらに類した用具は使用可であるが、魚が通常備える遊泳力やファイトする能力を妨げるもの、アングラーやクルーによる魚とのファイトや取り込みに有利となるものなどは、いかなる場合も使用が許されない。
- セーフティーライン [落下防止のための尻手(シッテ)ロープ] は、魚とのファイトにおいて釣り人に有利に作用しないものに限る、ロッド、リールあるいはハーネスに取り付けてもよい。

● 釣りの規定

- 魚がベイトまたはルアーにストライクしたら、**釣り人は他からの助けを借りることなく魚をフックにかけ、ファイトし、取り込まなければならない**。ただし、本ルール内の規定で認められたものは除く。
- ロッドをホルダーで固定している時に、魚がベイトまたはルアーにストライクしたら、釣り人はできるだけ速やかにロッドをホルダーから外さなければならない。この規定の意図は、**釣り人がロッドを持って自らストライクし、そしてフックをかける**ことにある。
- 一人の釣り人が何本かのラインを出していて、同時に多数の魚がかかった時は、最初にファイトした魚だけが記録申請の対象となる。
- ダブルラインを使用するのは自由であるが、**ファイトの大部分はシングルラインで行うことが前提**である。ダブルラインやリーダーだけでファイトの大部分を行ってはならない。
- ロッドベルトやウエストジンバルの使用は認められる。
- ボートから釣る時は、リーダーが同乗者の手に掴めるところにくるか、リーダーの端がロッドティップまで巻き上げられた時、1人

- または複数の人がリーダーを持つことができる。岸釣りまたはウエーディングの釣りをしているアングラーの取り込みを助ける人は、リーダーを掴む、ネットで掬う、あるいはギャフを掛ける際、アングラーからロッド1本ぶん以内の距離にいなければならない。
- リーダーを持っている人の他に、1人またはそれ以上の人がギャフを使用してもよい。魚にギャフをかける時、ギャフのハンドルは手に持っていないなければならない。
- 釣具と釣りに関する規定は、魚の検量が終わるまで適用される。

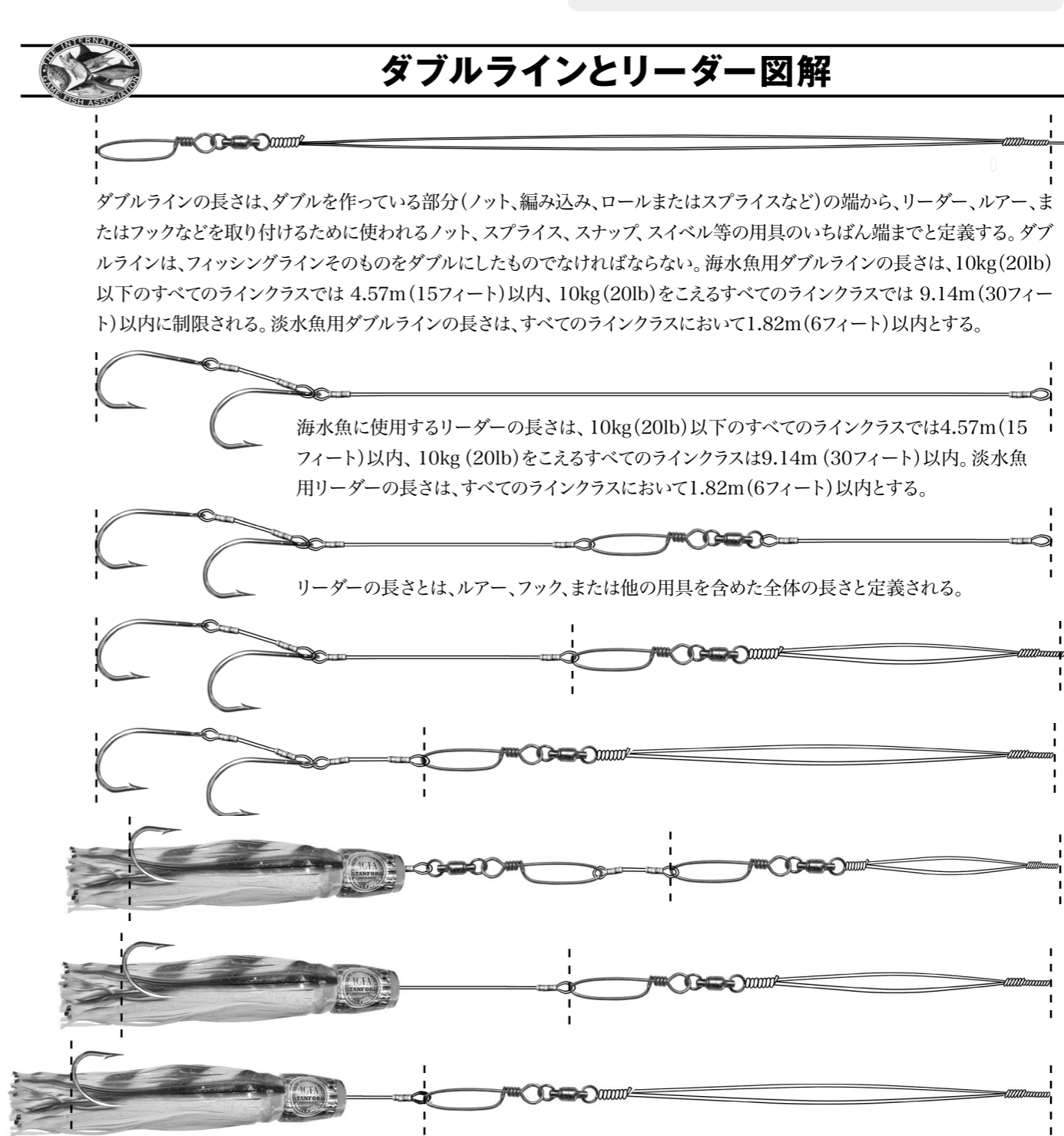
● 失格となる行為

- 前述の、釣具または釣りの規定に違反する行為。
- 魚がヒットしてからファイト中、そして取り込みないしリリースが完了するまで、**釣り人でない人が、ロッド、リール、およびライン(ダブルラインも含む)に、直接または間接的に触れることはできない**。本ルールで認められたこと以外の手助けは、すべて禁止である。ラインがロッドガイドを通る時に障害となるもの(寄せ餌、浮子を取り付けるためのライン、ゴムバンドなど)を取りのぞく際にも、ラインに手や体の一部が触れてはならない。アングラー以外がラインに触ることは、いかなる場合も禁止される。
- 魚とのファイト中にロッドホルダーを使う、船べりやその他の物体にロッドをもたせ掛けたりする等の行為は禁止される**。
- ラインを手繰って魚を取り込む行為や手釣りは禁止されている。いかなる方法であっても、魚を保持したり引き上げておくために、リーダーまたはラインにハンドラインやロープを取り付けてはならない。
- サメやオヒョウを含め、いかなる魚の取り込みにおいても、銃で撃ったり、モリやヤスで突いてはならない。
- トローリングまたはキャストイング用のルアーに使われるヘアーまたはポークリンドの他は、**ホ乳動物の肉、血、皮またはその他の部分をチャム(寄せ餌)またはベイトとして使用してはならない**。
- 魚が正常に泳ぐ能力を奪うために、ボートや道具を使用して魚を浜に追い上げたり、浅瀬に追い込んだりしてはならない。
- 魚がかかってファイトしている時に、ロッドまたはリールを交換してはならない。
- 魚がかかってファイトしている時に、ラインをつないだり、取り除いたり、足したりしてはならない。
- 故意にファウルフッキング*をしてはならない。
- ダブルライン全体がまったくロッドティップから出ない方法で魚を釣ってはならない。
- 法律・規則で禁止されている種類や大きさのベイトを使用してはならない。
- 魚を保持したり引き上げるため、釣り人のラインまたはリーダーをボートまたは他の物体に取り付けてはならない。
- 取り込み直前に逃げた魚を、当ルールに定められた以外の方法で再捕獲してはならない。
- 魚とのファイトを助ける、あるいはかかった力を逃がすようなやり方でアングラーを支えたり、触ったりしてはならない。ただし、転倒を避けるために短時間だけ触る、支えるなどの行為は許される。

● 失格となる状況

- ロッドが最低寸法より短くなったり、その性能をひどく減じるよ

- うな方法で折れた時。
- 取り込みの前にサメなどの魚またはホ乳動物などにかまれた、プロペラに当たったなどの理由で、魚の肉が削げたり、体に傷がついた場合(リーダーまたはラインによる傷、引っかき傷、古い回復した傷跡、再生による体型の変形などは失格する傷とはみなされない)。魚のすべての損傷は、写真にはっきり示し、充分な説明を記入した報告書を記録申請に添付しなければならない。
- 一尾の魚が複数のラインにかかった、あるいは絡んだ時。
- その魚を釣る行為が、魚種もしくは釣り場に適用される法律や規則に違反している時。



ダブルラインとリーダーを合わせた長さは、海水魚の場合、10kg(20lb)以下のすべてのラインクラスで6.1m(20フィート)以内、10kg(20lb)をこえるすべてのラインクラスでは12.19m(40フィート)以内とする。淡水魚の場合は、リーダーとダブルラインの合計長は3.04m(10フィート)以内でなければならない。

*印を付けた用語について

ダングリングフック、スイングフック	セカンドリーダーに付けられる、スレで魚を引っかける目的で使用するフック
ドロップ	ラインにハリスを付ける際に作る枝輪
トローリング材	ルアー・ヘッドに取り付けるスカート等と同じ
ギャングフック	3つ以上のポイントを備えたイカリ針のこと
ファウルフッキング	魚の口以外の部分にハリを引っかけること



フック配列の実例 (餌もしくはルアーを使用する場合)



OK 2本のフックの間隔が、餌を使用する場合は45.72cm (18インチ) 以内、ルアーを使用する場合は30.48cm (12インチ) 以内であること。それ以上離れているなら失格。



OK 2本のフック・アイは、互いにフックの長さ(使用されているフックの大きい方の全長)以上離れていて、セカンドフック(トレーリングフック)はスカートの中に収まっている。



NG セカンドフック(トレーリングフック)が完全にスカートから出ているので失格。



OK フックはスカートの長さの中に収まっている。



NG 餌、ルアーにかかわらず、2本のフック・アイは、互いにフックの長さ(使用されているフックの大きい方の全長)以上離れていなければいけない。



NG シングルフックが、完全にスカートから出ている。



OK 2本のフック・アイは、互いにフックの長さ(使用されているフックの大きい方の全長)以上離れていて、かつ餌釣りの場合は45.72cm(18インチ)以内、ルアーの場合は30.48cm(12インチ)以内に収まっている。



NG セカンドフックが餌に完全に固定されておらず、ダンanglingフックとなっている。

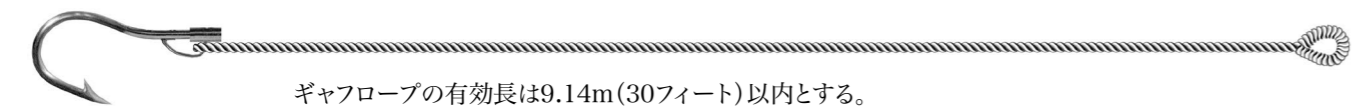


OK 餌釣りおよびルアー釣りを問わず、フックの先端にもう1本のフックのアイを通すことは認められる。



OK 両方のフックが完全に餌に固定されており、2本のフック・アイの間隔は45.72cm (18インチ) 以内に収まっている。

ギャフ



ギャフロープの有効長は9.14m(30フィート)以内とする。



ギャフの全長は2.44m(8フィート)以内。



フック配列の実例 (アシストフックに関するガイド)

アシストフックとは、モノフィラメント、マルチフィラメント、ワイヤなどの「リード」を介してルアーに接続されるフックのこと。バーチカルジグの普及とともに広く使われるようになり、伝統的なトレブルフックの代替としても人気が高まっている。

近年まで、IGFAはルアーに使用するアシストフックに関する規定を持たなかったが、その普及を受け、以下を新たに定めることとした。モノフィラメント、マルチフィラメント、ワイヤなどの「リード」を介してルアーに接続される、いわゆるアシストフックの類のシングルフックに関しては、以下の規定を遵守すること：スカートなしのルアーにアシストフックを使用する場合、リード

の長さは使用するフック長の1.5倍を超えてはならない。またフックのバンド位置は、ルアーと接続される最近点から4インチ(101mm)を超えてはならない。アシストフックとして、ダブルフックやトレブルフックを使うことはできない。

この新しいルールにより、アシストフックの適切な使用が広まることを期待する。プラグにアシストフックを使用すると、伝統的なダブルフック、トレブルフックなどよりも魚へのダメージがはるかに少なくなると考えられている。



OK リードの長さはフック長の1.5倍以内(フックのアイからルアーに装着される最近点までを測定)。



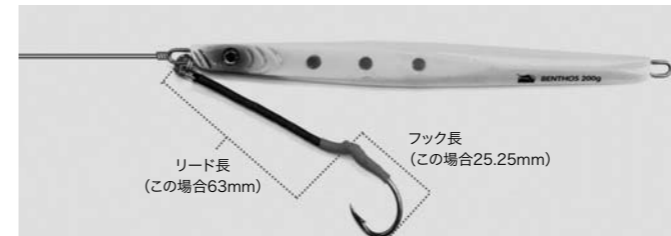
OK アシストフックは、複数が使用可能。リードをつけたダブルやトレブルフックをアシストフックとして使用することは禁止。



OK アシストフックは、ルアーのどちら側につけても可。



OK アシストフックは、スカートつきのルアー以外、どのようなルアーにも装着できる。



NG リード長がフック長の1.5倍を超えている(フックのアイからルアーに装着される最近点までを測定)。



NG フックのバンドと、リードがルアーに装着される最近点の間の長さが101mm(4インチ)を超えている。

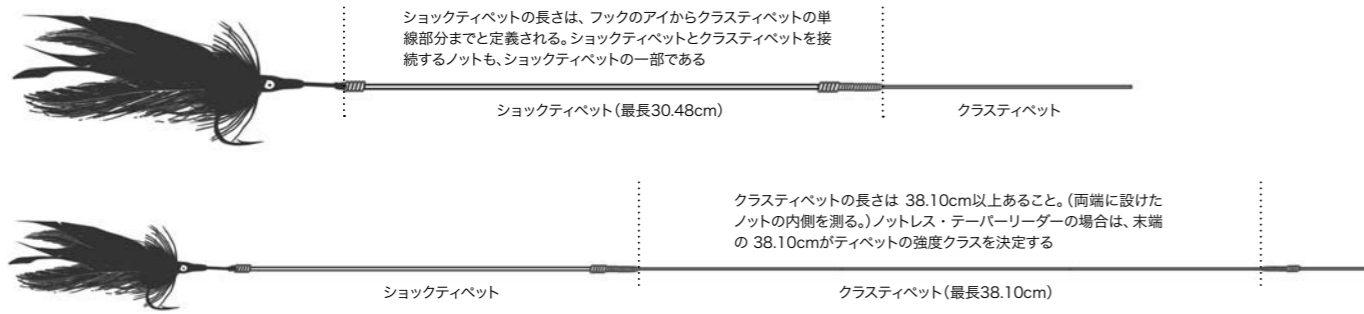
フライフィッシング・ルール

● 釣具の規定

A. ライン

フライラインおよびバックキングは、素材と強度について制限しない。

B. リーダー



リーダーは、フライフィッシングの慣習として一般的に使用されているものとする。リーダーにはクラスティベットおよびショックティベット（後者の使用は任意）が含まれる。フライラインとクラスティベットの間のバットおよびテーパー部分は、リーダーの一部とみなされ、その長さ、材質および強度に関する制限はない。クラスティベットは非金属性の材質とし、フライまたはショックティベットに直接取り付けなければならない。クラスティベットの長さは38.10cm（15インチ）以上とする（両端に設けたノットの内側を測定）。**ノットレス・テーパーリーダーの場合は、末端の38.10cm（15インチ）がティベットのクラスを決定する。**クラスティベットに長さの上限はない。クラスティベットの先にショックティベットを付け加えて、フライを結んでもよい。ショックティベットの材質および強度については制限しないが、30.48cm（12インチ）以内とする。ショックティベットの長さは、フックのアイからクラスティベットのシングル部分までを測る（クラスティベットに接続するためのノット部分もショックティベットとみなされる）。タンデムフックを使用するフライの場合、ショックティベットの長さは先頭のフックのアイから測る。

C. ロッド

素材と継数は自由であるが、ロッドはフライフィッシングの一般的な慣習と良識に従って作られたものであること。ロッドの全長は1.82m（6フィート）以上とする。アングラーに不当な利益を与えるようなロッドは失格となる。エクステンション・バットの長さは、リールフットの中央から測定して15.24cm（6インチ）以内。ただし全長3.33m（11フィート）を越えるスベイロッド、ダブルハンドルフライロッドの場合、エクステンション・バットの長さは25.4cm（10インチ）以内とする。

D. リール

リールは、フライフィッシング用として専用設計されたものであること。ギヤ比およびドラッグ機構について制限はないが、釣り人が不当な利益を受けると考えられるものは使用できない。電動リール、電子機構を用いたリールは禁止される。

E. フック

フライには、シングルまたはダブルフック、もしくは直列（タンデム）にした2本のシングルフックを使うことができる。タンデム・フライの第2フックは、ウイング材からはみ出してはならない。2つのアイの間隔は最大15.24cm（6インチ）。トレブルフックは使用できない。

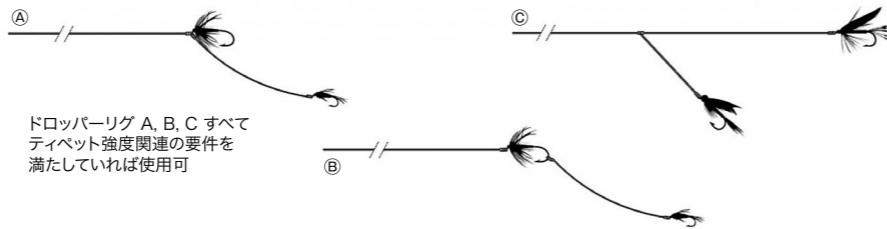
F. フライ

一般的に認められたタイプであること。これにはストリーマー、バックテイル、チューブフライ、ウエットフライ、ドライフライ、ニンフ、ポッパーおよびバグなどが含まれる。ルアー、生餌または保存したベイト（たとえば魚皮など）を単独で、もしくはフライと組み合わせて使用することはかたく禁止する。**ドロップパーフライは、下の説明に合致した場合のみ許される。**

ドロップパーフライは、サケ科の魚（マス、グレイリング、サケ各種など）を釣る場合に限り使用可能とし、条件は以下のとおり。

- ドロップパーフライは、浮かべて使うフライ、沈めて使うフライ、ないしそれらの組み合わせとしてタンデムで使うものとし、リードフライとの合計で2本が許される。
- ドロップパーフライに接続されたティベットの強度は、リードフライが接続されたティベットの強度と同じか、それ未満であること。
- 釣り上げた魚の申請クラスはリードフライが結ばれたクラスティベットの強度によって決まり、魚が実際にどのフライに掛かったかは不問とする。

フライロッドでキャストすることが可能である、というだけではフライの定義にはならない。魚を絡ませたり、ファウルフッキングさせるために設計されたいかなるフライの使用も禁止する。天然もしくは人工の匂いをフライに付けることはできない。匂い付けされたマテリアルの使用も禁止する。



ドロップパーリーグ A, B, C すべてティベットの強度関連の要件を満たしていれば使用可

G. ギャフとネット

魚を取り込む時に使われるギャフおよびネットは、全長が 2.44m（8フィート）以下とする。（橋、棧橋、またはその他の高い構造物

の上から釣る時は、この長さの制限は適用されない）。フライングギャフの使用は禁止する。ギャフはシングルフックだけが認められ、モリまたはヤスを取り付けることはできない。ロープをはじめいかなる延長物も、ギャフに取り付けることは禁止されている。

● 釣りの規定

- 釣り人は、他からの手助けを受けることなくキャストし、フックをかけ、ファイトして、魚をギャフないしネットまで引き寄せなければならない。釣り人が魚とファイトしているとき、他の人はギャフ掛けやネット入れの目的でリーダーを持つ行為以外の手助けをしてはならないし、釣り具のどの部分にも触れられない。岸釣りまたはウエーディングの釣りをしているアングラーの取り込みを助ける人は、リーダーを掴む、ネットで掬う、あるいはギャフを掛ける際、アングラーからロッド1本ぶん以内の距離にいなければならない。
- キャストイングやリトリートは、通常の慣習に則り、一般的に受け入れられた方法で行わなければならない。キャストイングの要件は、フライの重さでラインを送り出すのではなく、ラインの重さでフライを飛ばすことである。動いているボートの後方にフライを流す事は許されない。**魚にフライをキャストする時、およびリトリートの間は、ボートのギヤを完全に外し、ニュートラルか停止の位置にしておかなければならない。**リールから事前に出しておけるラインの長さは、フライから測定して36.57m（120フィート）以内とする。
- 魚がフックにかかった時にエクステンション・バットを追加すること以外は、タックルにいかなる変更も加えてはならない。
- 魚は、使用しているフライのフックにかけなければならない。小さい魚がフライにかかり、それを大きい魚が呑み込んでしまった場合、大きい魚は記録として認められない。
- 魚を取り込むために、1人以上の人がギャフ掛けやネット入れの手助けをしてもよい。
- 釣具と釣りに関する規定は、魚の検量が終わるまで適用される。

● 失格となる行為・状況

- これまで述べてきた、釣具または釣りの規定に違反する行為。
- 魚がヒットしてからファイト中、そして取り込みないしリリースが完了するまで、釣り人でない人が、ロッド、リール、およびライン

オールタックル・レンジス・レコードに関するルール

● 一般情報

レンジス・レコードに申請する魚は、すべて現場で計測を行い、リリースをして良好な状態で泳ぎ去っていくのを確認しなければならない。有効なリリースのためには、水中で魚を保持し、エラに水を通して回復を待つこと。レンジス・レコードに申請した場合、その他のカテゴリーに申請することはできない。

● 釣具と釣りに関する規則

淡水および海水のコンベンショナルおよびフライタックルに適用されるIGFA ルールが当てはまるが、以下の例外を設ける。釣具と釣

- （ダブルラインも含む）に、直接または間接的に触れることはできない。本ルールで認められたこと以外の手助けは、すべて禁止である。ラインがロッドガイドを通る時に障害となるもの（寄せ餌、浮子を取り付けるためのライン、ゴムバンドなど）を取りのぞく際にも、ラインに手や体の一部が触れてはならない。アングラー以外がラインに触ることは、いかなる場合も禁止される。
- 魚とのファイト中に、船べりやその他の物体にロッドをもたせ掛けたりする等の行為は禁止される。
 - ラインを手繰って魚を取り込む行為や手釣りは禁止されている。いかなる方法であっても、魚を保持したり引き上げておくために、リーダーまたはラインにハンドラインやロープを取り付けてならない。
 - 故意にファウルフッキング*をしてはいけない。
 - サメやオヒョウを含め、いかなる魚の取り込みにおいて、銃で撃つたり、モリやヤスで突いてはならない。
 - ホ乳動物の肉、血、皮またはその他の部分をチャム（寄せ餌）として使用してはならない。
 - 魚が正常に泳ぐ能力を奪うために、ボートや道具を使用して魚を浜に追い上げたり、浅瀬に追い込んだりしてはならない。
 - 魚を保持したり引き上げるため、釣り人のラインまたはリーダーをボートまたは他の物体に取り付けてはならない。
 - 取り込み直前に逃げた魚を、当ルールに定められた以外の方法で再捕獲してはならない。
 - ロッドが最低寸法より短くなったり、その性能をひどく減じるような方法で折れた時は失格となる。
 - 1尾の魚が複数のラインにかかった、あるいは絡んだ時は失格となる。
 - 取り込みの前にサメなどの魚またはホ乳動物などにかまれた、プロペラに当たったなどの理由で、釣り上げた魚の肉が削げたり、体に傷がついた場合（リーダーまたはラインによる傷、引っかき傷、古い回復した傷跡、再生による体型の変形などは失格する傷とはみなされない）。魚のすべての損傷は、写真にはっきり示し、十分な説明を記入した報告書を記録申請に添付しなければならない。
 - 魚とのファイトを助ける、あるいはかかった力を逃がすようなやり方でアングラーを支えたり、触ったりしてはならない。ただし、転倒を避けるために短時間だけ触る、支えるなどの行為は許される。

A. ギャフとネット

- 魚を取り込むためにギャフを使用することはできない。
- ネットは、全長が2.44m（8フィート）を超えないこと（橋、棧橋、またはその他の高い構造物の上から釣る時は、この長さの制限は適用されない）。
- 魚のヌルや鱗に与える損傷を最小限に抑えるため、ラバーコーティングを施した結び目のないネットあるいは類似の製品の使用が推奨される。



世界記録の必要事項

IGFAルールに従って釣った魚だけが、世界記録の対象となる。以下に、記録の部門、必要事項および記録申請の手続について記述する。

世界記録のカテゴリー

● 一般事項

IGFAはラインクラスおよびティペットクラス、それにオールタックルの各部門で、海と淡水のゲームフィッシュを対象として世界記録を認定管理する。世界記録として認定される魚の重量は0.453kg (1lb)以上なければならない。既存記録更新のためには、あらかじめ定められた重量差が存在することが前提となる。また新規認定のためには最低重量規則が適用される。

ふ化場、禁漁区、商業用に魚が放流された小さな水域で釣った魚は対象にならない。IGFAは、それぞれの申請に関してケース・バイ・ケースで上記の基準を適用する権利を有する。また釣りの行為は、その魚種および釣り場に適用される法律および規則に違反するものであってはならない。

IGFAの記録対象の新しい魚種が追加される場合には施行期日が発表され、施行期日以後に釣れたものが認定の対象となる。施行期日前のものについては対象とならない。『World Record Game Fishes』または他のIGFA出版物における魚種の追加発表は、公式な発表とみなされる。

同一人物が、同じ日に同じ種類の記録対象魚を複数釣った場合、もっとも重い(長い)もの、あるいは同重量の場合はもっとも長いものだけが申請受理の対象となる。

● オールタックル部門

オールタックル記録とは、60kg (130lb)までの全ラインクラスで釣られた魚の最高重量である。ラインクラスの最大は60kg (130lb)までとし、それ以上のラインを使用した場合は失格となる。

オールタックル部門の記録申請対象はすべての魚種とし、「海水魚」「淡水魚」「フライフィッシング」に関する IGFA ルールのいずれかが適用される。

ラインクラスおよびティペットクラスの対象魚リストに含まれていない魚種の申請は、下記の基準に合ったものであること。

- 魚は、認められた学名を代表するものであること。
- 魚は、申請書に添付された写真やその他のデータによって確認できること。
- 魚は、トロフィーサイズと思われる大きさであること。その種に関し、報告された最大重量の2分の1以上目安とする。最大重量データが存在しない場合は最大体長で代用し、その2分の1以上があること。最大重量および最大体長データは、フィッシュベースwww.fishbase.orgをはじめ、定評のある各種ソースを参照する。
- 魚は、トロフィーサイズと思われる大きさであること。その種の最大重量の2分の1以上でなければならない。

げた魚が同一人物による既存記録とタイになるためには、既存記録を最低1センチメートル上回っていること。

D. 申請書に添付する写真は、以下の情報を含まなければならない。

- IGFAメジャーに乗せ、口吻と尾ビレの位置がはっきりとわかる魚の全体写真。手を添えても良いが、メジャーの目盛りの読み取りを妨げるような写真は受け入れない。
- メジャー上に乗せた魚の吻端と尾ビレの位置がはっきりとわかるクローズアップ写真。
- 釣り人が魚を持っている写真。
- ロッドとリールの写真。

● 魚のハンドリングについて

魚を水から上げ、計測を行って申請写真を撮影する際には、魚のヌルや鱗に与える損傷を最小限に抑えるため、ラバーコーティングを施した結び目のないネットなどを使用すべきである。魚の唇に掛けるフィッシュグリップの類も使用可能であるが、大型の魚は垂直に持ち上げてはならない。唇まわりの筋肉、骨組織、あるいは内臓を損傷する危険がある。手を使って魚を水から上げる場合は、片手で下唇を持ち、もう一方の手で魚を下から支えるようにする。魚は水平に持ち上げ、決して垂直にしないこと。

● 計測について

IGFA記録に申請するためには、魚の寸法を計測し、写真を撮影することになる。いずれも一定の時間を必要とするので、魚を取り込むまえに必要な用具類を準備しておくことが望ましい。計測や撮影にかかる時間が数分間にわたる場合は、魚をひんばんに水に入れるか、ライブウェルを活用し、呼吸をさせてやること。

● リリースについて

魚のリリースにあたっては、時間と注意が必要である。まず魚を水に入れ、尾ビレの根本を握る。魚が自発的に身を振って泳ぎ去っていかない場合は、エラに水を通すためにそっと前に動かしてやる。エラは一方向への水の流れにしか対応できないので、前後には動かさないほうが良い。ゆっくりと円を描くように動かすか、ポートを低速で走らせるのは良い方法である。

B. メジャー

- 計測は、IGFAの販売する専用メジャーを使用する。
- メジャーが長すぎる場合はカットしても良いが、つなぐことはできない。

● 釣りの規定

以下の場合には失格となる。

- 釣具と釣りに関するIGFAルールに違反した場合。
- 計測中に魚が死亡した、あるいはリリース後に遊泳が確認できなかった場合。

● レングス・レコード認定に関する諸規則

その他のレコード・カテゴリーと同じ規則が適用されるが、以下の追加や例外を設定した。

A. 計測に関する規則

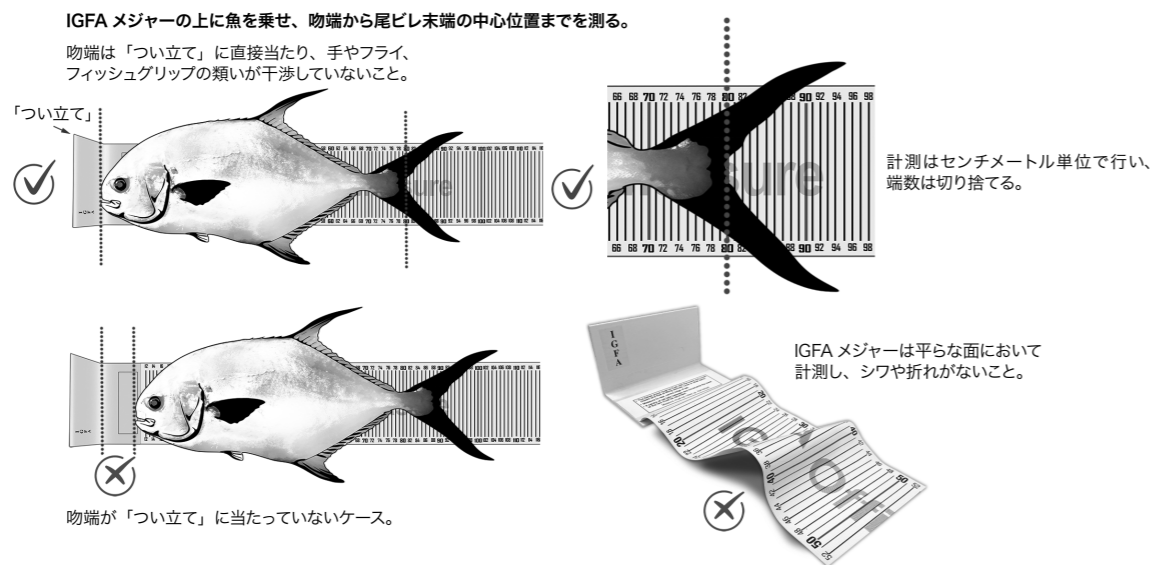
- 計測は、平らな面にIGFAメジャーを置いて行う。
- 魚の吻端はIGFAメジャーの起点に設けた「つい立て」に接触していること。ルアーやフィッシュグリップなどは取り外す。
- 魚をIGFAメジャー上に置いた状態で、尾ビレの端の中心位置までを測る。
- 計測はセンチメートル単位で行う。
- 単位は切り捨てとする。45センチと46センチの間に来た場合、申請できる長さは45センチになる。

B. 空白カテゴリーに申請するための最小寸法

レングス・レコードの空白カテゴリーに申請する魚の寸法は、対象魚種リストに示されているとおり、該当種の最大記録の半分以下上なければならない。

C. 記録更新もしくはタイ記録達成のための最小寸法

- 既存の記録を更新するためには、少なくとも2cmが必要である。
- 既存記録とまったく同寸、および長さは上回っているものの差が2cm未満の魚は、タイ記録とみなされる。タイ記録申請に3尾以上の魚が関係してくる場合は、オリジナルの記録(最初にキャッチされた魚)と寸法を比較する。オリジナルの記録(最初にキャッチされた魚)より小さな魚は審査を行わない。釣り上



● オールタックル・レングス部門 (コンベンショナル)

オールタックル・レングス記録 (コンベンショナルカテゴリー)は、60kg (130lb)までのラインクラスで釣られ、リリースされた魚の最大長である。ラインクラスの最大は60kg (130lb)までとし、それ以上のラインを使用した場合は失格となる。

● オールタックル・レングス部門 (フライ)

オールタックル・レングス記録(フライカテゴリー)は、10kg (20lb)までのティペットクラスで釣られ、リリースされた魚の最大長である。それを超える強度のティペットを使用した場合は、コンベンショナルカテゴリーの申請として対応する。

● ジュニア・アングラー部門

ジュニア世界記録は、60kg (130lb)までの全ラインクラスで釣られた魚の最大重量である。ジュニアカテゴリーとは、11歳から16歳までのアングラーを対象とし、男女の別がある。対象魚は、ラインクラスおよびティペットクラス世界記録と同じである。釣りの規則としてはIGFAルールが適用されるが、魚を計測する場所は陸上に限定しない。

● スモールフライ部門

スモールフライ世界記録は、60kg (130lb)までの全ラインクラスで釣られた魚の最大重量である。スモールフライカテゴリーとは、10歳以下のアングラーを対象とし、男女の別がある。対象魚は、ラインクラスおよびティペットクラス世界記録と同じである。釣りの規則としてはIGFAルールが適用されるが、魚を計測する場所は陸上に限定しない。

● ラインクラスおよびフライロッド部門

ラインクラスの記録は、クラスラインの強度によって区分される。フライロッドの世界記録は、クラスティペットの強度によって区別される。ラインクラス世界記録の対象魚種とフライロッド世界記録の対象魚種は同じである。ラインクラスとティペットクラスは以下のとおり。

ラインクラス	メートル法 (kg)	1	2	3	4	6	8	10	15	24	37	60
ポンド表記 (lb)		2	4	6	8	12	16	20	30	50	80	130

ティペットクラス	メートル法 (kg)	1	2	3	4	6	8	10
ポンド表記 (lb)		2	4	6	8	12	16	20

【淡水魚の海および汽水でのキャッチについて】

淡水魚部門に記載されている魚は、海または汽水で釣ったものも淡水魚の世界記録として認められる。ただし釣り具および釣り方は「淡水魚」のルールに基づいたものでなければならない。

オールタックル世界記録を除き、魚種によってラインクラスが限定されている場合がある。種類ごとの最大ラインクラスは以下のとおりとする。

JGFAへの世界&日本記録申請における注意点

提出が求められるもの

世界記録もしくは日本記録を申請する場合には、以下に挙げるものをJGFA事務局に提出しなければならない。

1 公式申請書(1件の申請に対して1通)

JGFAは会員全員に、公式の記録申請書を配布しているのでこれを使用する。釣行の際には携帯することをお勧めする。(複写して使用しても差し支えない。)

2 ラインサンプル

申請の対象となった魚を釣り上げる時に使用したライン、リーダー等の仕掛け。詳しくは、以下の「ラインサンプルの提出方法」を参照のこと。

3 記録を証明する写真(数点)

詳しくは、次ページ「記録申請に必要な写真と撮り方」を参照のこと。

申請書への記入について

申請書への記入は幾つかの署名欄を除いて、すべて申請者本人が明確に記入し、提出する際には記入漏れがないか必ず確認すること。

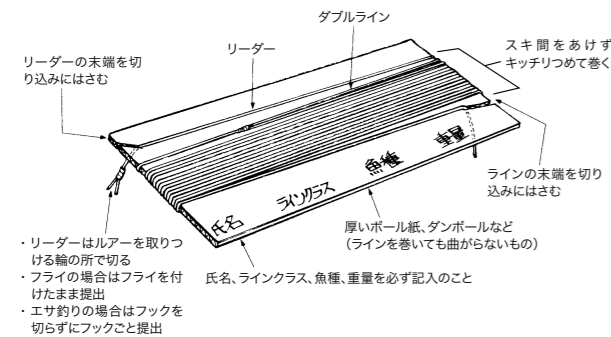
■署名欄について

申請には以下に挙げる署名が必要となる。署名漏れや署名の重複は申請を受理されない場合があるので注意が必要である。

- (1) 船を用いた場合
 - (イ) 船長の署名
 - (ロ) 乗組員1名の署名
- (2) ウエイマスター (計量人)の署名
- (3) 計量立ち会い人の署名(申請者、船長、ウエイマスター以外の者)
- (4) 現認者(公証人)の署名(現認者とは、最終的に本申請書を正当なものとして認めた者)
- (5) 上記以外で捕獲を証明できる2名以上の署名

ラインサンプルの提出方法

■記録申請のための提出方法



1 ラインクラス部門(海水/淡水)およびオールタックル部門の記録申請

使用したリーダーとダブルラインの全部、およびダブルラインかリーダー、フックに最も近いシングルラインを少なくとも5m (16.5フィート)を提出

魚の測定について

魚の測定はIGFAルールで定める諸規則に従い、極めて慎重に行われるべきである。

世界記録の申請期限

アメリカ国内では釣った日から60日以内、その他の水域では釣った日から90日以内にIGFAに受理されなければいけない。ただし、オールタックル部門への申請については、要件を満たしていれば90日を過ぎても申請できる。

日本記録の申請期限

すべての部門において、日本領土及び専管水域(200カイリ)内で釣った魚の記録申請は、釣った日から30日以内にJGFAに受理されなければいけない。ただし、離島など交通の便の悪い遠隔地からの申請や、何らかの理由があって申請書の提出が遅れる場合には、その旨を示した文書を提出し、JGFA審査委員会がやむを得ない事由と判断した場合は、30日間の延長が認められる。

世界記録に相当する日本記録の審査、認定について

2011年1月より続いておりました「世界記録に相当する日本記録は、世界記録の結果を待って判断する」という規定を破棄し、世界記録に相当するものももちろん世界記録に申請いたしますが、それらの日本記録については世界記録の結果を待つことなく別個に審査する方向といたしました。この規定は2017年4月以降の審査から適用しております。ただしフライフィッシングの場合は、世界記録に相当するものは、JGFA事務局ではクラスティベットの切れませんので、従来どおりIGFAに世界記録申請し、その結果を日本記録に反映いたします。

しなければいけない(世界記録にも相当する場合は10m以上)。すべてのラインサンプルは連結されたものを提出しなければいけない。

●エサ釣りの場合…釣針はラインサンプルの一部として、付けたまま提出する。

●ルアーフィッシングの場合…使用したルアーは取り外して、ラインのみ提出する。(その代り、ルアーおよびフック配列のわかる写真を提出すること。)

2 フライフィッシングの記録申請

リーダー全体を、フライを付けたまま提出すること。

ただし以前のように、フライラインの先端部を1インチ付ける必要はなし。

3 ラインサンプルの提出方法

それぞれのラインサンプルは、ラインを傷つけることなく、両端どちらからでも容易にほどける方法で提出しなければいけない。ラインはそのまま束ねて提出してはいけない。イラストのように、厚紙にラインが重ならないようきちんときれいに巻き付け、氏名、ラインクラス、魚種名、魚の重量を油性ペンで記入のこと。

記録申請に必要な写真と撮り方



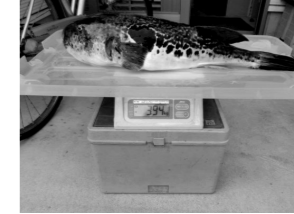
①本人が釣ったことを証明する写真

釣り人(本人)及び申請する魚、使用した釣り道具と一緒に写す。背景は乱雑な場所を避ける。魚は尾柄部をヒモで縛り、吊り下げるように手で持つ。手で持てない大きな魚は支柱などに吊り下げる。魚のリリースを考慮した場合は、ヒモで吊るす必要はない。魚種判定に支障をきたすことがあるので、JGFA記録用紙は魚体に貼りつけない。



②魚種判定、記録の正確さを証明する写真

魚を地面(平らで魚体のすべてがよく見える場所)に置き、各ヒレは広げて、全体像を真上から写す。この時、魚のすぐ横に目盛が読めるようにメジャーを置くべきである。



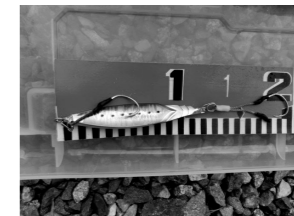
③魚の重量を証明する写真

魚をハカリに掛け、重さを量っている様子を写す。数値が読める目盛のクローズアップ写真も撮っておく。ストロボ撮影のときは、反射で目盛が読みづらくなることもあるので、上皿バカリなどの文字盤前面のカバーは外しておくことよい。



④魚種特定のための魚体クローズアップ写真

魚種の判別に疑問が生じないように、特徴となる部位を拡大して写す。種類の混同しやすい、バス類・イワナ類・サーモン類・トラウト類・カジキ類・マグロ類・サメ類・ヒラアジ類については特に重要である。



⑤ルアーのフック配列を証明できる写真

ルアーを使用した場合、ルアーの全体像を長さ、フック配列がわかるように写す。



リリースに関するルールと推奨事項

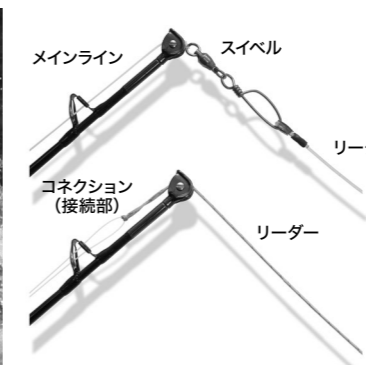
IGFAは、以下のいずれかが起こった場合、正式にその魚をリリースしたと判断します。

- メイトがリーダーを握った。
- スイベルがロッドティップに到達した。
- リーダーとメインライン/ダブルライン/フライラインの間のコネクション(ノットやスプライスなど)がロッドティップを通過した。

リーダーの長さはIGFAルールに合致するものとします。10kg(20lb)までのラインでは、リーダーは15フィート(4.57m)を超えることができません。10kg(20lb)を超える太さのラインを使っている場合、リーダーは30フィート(9.14m)を超えることができません。リーダーの長さにはルアーやフックの長さも含まれますので、最後のフックのバンドを末端と考えます。IGFAルールにおいてフライフィッシングのリーダー最大長は規定がありませんが、クラスティベットの最大10kg(20lb)となっていますので、ルアーやエサ釣りのタックルの場合と同様にフライフィッシングの場合、リーダー全長の上限は15フィート(4.57m)とし、最後

のフックのバンドを末端と考えます。ショックティベットの12インチ(30.48cm)を超えることが許されず、クラスティベットの少なくとも15インチ(38.10cm)なければなりません。

このルールは、とくにトーナメントにおいて迅速でコンディションの良いリリースを実現してくれることでしょう。このルール採用に伴い、IGFAトラスティは安全で倫理的なリリースにつながる推奨事項を次のように明文化しました。



- ライブベイトやデッドベイトを使う場合は、サークルフックの使用が推奨されます。
- フックを安全に、魚にダメージなく外せる場合は、外してリリースしましょう。
- もしフックが外せない場合は、できるだけ近い位置でリーダーを切りましょう。
- リーダーを握って意図的にそれを強く引き、切るのはやめましょう。あご以外の場所にフックがかかっている場合、魚に大きなダメージが起こります。
- ファイトで疲れた魚は、エラに水を通しながら、時間をかけて回復させてやります。
- ネットを使う場合には、結び目のないラバーコーティングされたものを選びましょう。

JGFA日本記録 (IGFAルールの使用が前提です)

部門またはクラブ	使用ルール	対象魚	最大ラインクラス	申請できる魚の最低サイズ	申請期限	男女別	申請書	写真	船上での計量	使用ライン仕掛け
オールタックル日本記録	IGFAルール	日本国内で釣ったすべての魚種	60kg (130lb) 以下	1ポンド (453g) 以上。ただしその魚種の最大と思われるものの1/2以上	釣った日より30日以内	なし	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	不可	必要
ラインクラス 海水部門・船釣り・岸釣り	IGFAルール	JGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	魚種により違う (該当箇所を参照)	1ポンド (453g) 以上	釣った日より30日以内	あり	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	不可	必要
ラインクラス 淡水部門	IGFAルール	JGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	魚種により違う (該当箇所を参照)	1ポンド (453g) 以上	釣った日より30日以内	あり	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	不可	必要
ティベットクラス (フライ) 部門	IGFAルール	ラインクラス部門 (淡水・海水) に指定されている魚種	10kg (20lb) 以下	1ポンド (453g) 以上	釣った日より30日以内	あり	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	不可	必要
ジュニア日本記録	IGFAルール	日本国内で釣ったすべての魚種	60kg (130lb) 以下	1ポンド (453g) 以上	釣った日より30日以内	あり (16歳以下)	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	可	必要
オールタックル・レンジス部門 (コンベンショナル = フライ以外)	IGFAルール	JGFAが指定した魚種 ((該当箇所を参照)	60kg (130lb) 以下	魚種によって最低長の設定あり (該当箇所を参照)	釣った日より30日以内	なし	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	可	必要
オールタックル・レンジス部門 (フライ)	IGFAルール	JGFAが指定した魚種 ((該当箇所を参照)	10kg (20lb) 以下	魚種によって最低長の設定あり (該当箇所を参照)	釣った日より30日以内	なし	日本記録申請用紙を使用	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	可	必要

申請資格：オールタックル=JGFA会員および非会員、ラインクラス部門=JGFA会員のみ、ジュニア部門=ジュニア会員のみ
 申請料：サポート会員を除くJGFA会員=無料、サポート会員=6,000円、非会員=10,000円 (入会費用込み)

提出するラインサンプルは、以下の要件を満たすこと。

- ①実際に使用したラインであること。
- ②ダブルライン、ショックリーダーなどを使用した場合、必ずシングルラインと連結した状態で段ボールに巻き提出 (氏名、ラインクラス、魚名、重量を記入)。
- ③提出するシングルライン (道糸) は最低5メートル。世界記録に相当するような場合は10メートル。
- ④使用した仕掛けの実物またはスケッチを提出。

JGFAスペシャルクラブ (IGFAルールの使用が前提です)

クラブ名	対象魚	申請できる魚の最低サイズ	写真	ライン・仕掛けの提出	船上での計量	その他の条件
5ポンドオーバークラブ	クロダイ、メジナ類	5ポンド(2.25kg)以上	必要	不要	可	—
5ポンドオーバークラブ	アイナメ、ソイ類	5ポンド(2.25kg)以上	必要	不要	可	—
10ポンドオーバークラブ	マダイ、ヒラメ	10ポンド(4.50kg)以上	必要	不要	可	—
10ポンドオーバークラブ	イシダイ、イシガキダイ	10ポンド(4.50kg)以上	必要	不要	可	リリース前提
100ポンドオーバークラブ	日本国内で釣ったすべての魚	100ポンド(45.00kg)以上	必要	不要	可	スタンディングファイトのみ
5ポンドバスクラブ	オオクチバス	5ポンド(2.25kg)以上	必要	不要	可	リリース前提
10ポンドシーバスクラブ	スズキ、ヒラスズキ、タイリクスズキ	10ポンド(4.50kg)以上	必要	不要	可	リリース前提
200kgクラブ	日本国内で釣ったすべての魚	200kg以上	必要	不要	不可	—
300kgクラブ	日本国内で釣ったすべての魚	300kg以上	必要	不要	不可	—
メーターオーバークラブ	全長1m以上の淡水魚(コイ、ソウギョ、アオウオ、ハクレン、コクレン、カムルチー、ピワコオナマズ、イトウ、アカメなど)	全長1m以上	必要	不要	可	リリース前提

- 使用ルール：IGFAルール
- 最大ラインクラス：60kg(130lb)
- 申請期限：釣った日より30日以内
- 男女別：なし
- 申請資格：釣った時点ですでに会員であること(サポート会員は除く)
- 申請料：無料
- 申請書：日本記録申請用紙を使用
- 写真の提出：必要(種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)
- 使用ライン・仕掛けの提出：不要

IGFA世界記録部門とスペシャルクラブ

IGFA世界記録

部門	使用ルール	対象魚	最大ラインクラス	申請できる魚の最低サイズ	申請期限	男女別	申請書	写真	使用ライン仕掛け	申請料
オールタックル部門	IGFAルール	世界中のすべての魚	60kg (130lb) 以下	1ポンド (453g) 以上。ただしその魚種の最大と思われるものの1/2以上	制限なし (過去のものでも可)	なし	翻訳サービスあり (無料)	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	必要	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
ラインクラス部門 海水・淡水	IGFAルール	IGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	魚種により違う (該当箇所を参照)	ラインクラスの1/2以上	釣った日から60日以内 (米国外90日以内)	あり	翻訳サービスあり (無料)	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	必要	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
ティベットクラス (フライ) 部門 海水・淡水	IGFAルール	IGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	10kg (20lb) 以下	ティベットクラスの1/2以上	釣った日から60日以内 (米国外90日以内)	あり	翻訳サービスあり (無料)	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	必要	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
ジュニア部門	IGFAルール	IGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	60kg (130lb) 以下	ラインクラスの1/2以上	釣った日から60日以内 (米国外90日以内)	年齢別あり、男女別あり	翻訳サービスあり (無料)	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	必要	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
オールタックル・レンジス部門 (コンベンショナル = フライ以外)	IGFAルール	IGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	60kg (130lb) 以下	魚種によって最低長の設定あり (該当箇所を参照)	制限なし (過去のものでも可)	なし	翻訳サービスあり (無料)	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	必要	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
オールタックル・レンジス部門 (フライ)	IGFAルール	IGFAが指定した魚種 (該当箇所を参照)	10kg (20lb) 以下	魚種によって最低長の設定あり (該当箇所を参照)	制限なし (過去のものでも可)	なし	翻訳サービスあり (無料)	必要 (種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)	必要	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)

- 使用ルール：IGFAルール
- 申請料金：IGFA会員登録が必要 (デジタル会員：3000円、個人会員：5000円)、その他の申請料はJGFAが負担
- 申請書：翻訳サービスあり (無料)
- 写真の提出：必要(種類・撮り方に関しては該当ページを参照のこと)
- 使用ライン・仕掛けの提出：必要

スペシャルクラブ

部門	対象魚	申請できる魚の最低サイズ	申請料
トロフィーフィッシュ・クラブ	バラマンディ	23kgもしくは又長125cm以上	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
	ボーンフィッシュ	4.5kgもしくは又長70cm以上	
	シイラ	23kgもしくは又長130cm以上	
	ラージマウスバス	4.5kgもしくは又長60cm以上	
	マスケランジ	13.5kgもしくは又長130cm以上	
	ルースターフィッシュ	23kgもしくは又長130cm以上	
	スヌーク	11.5kgもしくは又長95cm以上	
	スペックルドビーコック	10kgもしくは又長85cm以上	
	ストライプトバス	23kgもしくは又長130cm以上	
	キハダ、メバチ	90kgもしくは又長170cm以上	
グランドスラム・クラブ (指定魚種のうち3種を1日で) スーパー・グランドスラム・クラブ (指定魚種のうち4種を1日で) ファンタジースラム・クラブ (指定魚種のうち5種を1日で)	バスカテゴリー： ラージマウス、ロック、スモールマウス、ストライプト、スポッテッド、ショール、ホホワイト、ホワイトロック ビルフィッシュカテゴリー： クロカジキ (太平洋および大西洋)、シロカジキ、マカジキ、タイセイヨウマカジキ、バショウカジキ (太平洋および大西洋) フウライカジキ、メカジキ インショアカテゴリー： ボーンフィッシュ、スヌーク、ターボン、パーミット、クベラスナッパー、カスミアジ、ロウニアジ、ミルクフィッシュ、ルースターフィッシュ、マルコバン オフショアカテゴリー： ビルフィッシュ全種、マグロ類全種、シイラ、カマスサワラ サーマンカテゴリー： アトランティック、キング、レッド、シルバー、チャム、ピンク シャークカテゴリー： ブラックティップ、ブルー、ブル、ハンマーヘッド、マコ、ポービーグル、スレッジャー、タイガー、トープ トラウトカテゴリー： ブルック、ブラウン、ブル、カットスロート、ゴールデン、レイク、レインボー ツナカテゴリー： メバチ、タイセイヨウマグロ、クロマグロ、イソマグロ、コシナガ、カツオ、ミナミマグロ、キハダ	計測不要 リリース奨励	\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)
ロイヤルスラム・クラブ	上記各カテゴリーにおいて、指定の全魚種を生産のうちにキャッチ		\$100(非IGFA会員)ないし\$50(IGFA会員)

スペシャルクラブ申請の際にも、IGFAルールが適用されます。申請制限はなく、過去に釣った魚も対象とすることができます。男女のカテゴリーは設定されていません。写真の提出が必要です。
 ●IGFAスペシャルクラブへの申請料は自己負担とさせていただきます。

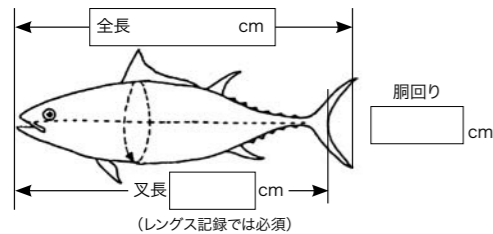
日本記録・世界記録・スペシャルクラブ・フィッシングコンテスト

- 提出物はJGFAないしIGFAの所有物となり、返却はいたしませんのでご注意ください。
- 記録申請書はこの最新版のみを使用し、旧版は使わないでください。

申請書

★申請するカテゴリー（該当す□に✓を入れてください）

- ラインクラス世界記録 ライン：_____lb _____kg
- フライロッド世界記録 ティベット：_____lb _____kg
- オールタックル世界記録 オールタックル・レンジス世界記録
- ラインクラス日本記録 ライン：_____lb _____kg
- フライロッド日本記録 ティベット：_____lb _____kg
- オールタックル日本記録 オールタックル・レンジス日本記録
- フライ・レンジス世界記録 フライ・レンジス日本記録
- ジュニア日本記録 年齢：_____歳
- JGFAスペシャルクラブ：_____クラブ
- フィッシングコンテスト



魚種名 (標準和名)	
重量 (小数点第2桁まで)	kg
釣り方	<input type="checkbox"/> 船釣り <input type="checkbox"/> 岸釣り <input type="checkbox"/> 川・湖の釣り <input type="checkbox"/> フライ
釣った日	西暦 20____年 ____月 ____日
ボート名 (使用した場合)	
釣り場	できるだけ詳しく
釣った時の状況・感想	

釣り人氏名 (原則としてJGFA会員登録氏名)	フリガナ 印
JGFA所属クラブ	クラブ名 会員番号 <input type="checkbox"/> 個人会員
住所	フリガナ 〒
電話番号	— —
FAX番号	— —
メールアドレス	@
現認者署名 (公証人)	フリガナ 印

ロッド	メーカー名 製品名	
ティップ長	リールシートの中心から 竿先まで	cm
バット長	リールシートの中心から バットエンドまで	cm
リール	メーカー名 製品名	
メインライン/ ティベット	メーカー名 製品名 強度表示	lb kg
フライライン	メーカー名 製品名 番手	
ダブルライン	<input type="checkbox"/> 使わない <input type="checkbox"/> 使った *フライの場合は「使わない」にチェック	cm
リーダー	<input type="checkbox"/> 使わない <input type="checkbox"/> 使った *フライの場合はショックティベット	cm
エサ/ルアー/ フライ	名前 フックの数 製品(パターン)名	本

魚種やキズがわからなくなるので、魚体には申請用紙を貼らない

申請の際は、写真のプリントないしメディアを同封してください

ハカリのタイプに制限はありません

使用したルアーなどもロッドにつけておく

ストロボ撮影時には、ハカリの透明カバーを外すと反射防止になります
目盛り部分の拡大写真も提出してください

申請の際は、写真のプリントないしメディアを同封してください

ストロボ撮影時には、ハカリの透明カバーを外すと反射防止になります
目盛り部分の拡大写真も提出してください

★日本(世界)記録申請の場合は、上の2枚の他に次のものもご提出いただけます。

- ①魚種判定できる写真(1枚以上)
- ②ルアーの写真ないしスケッチ(フック配列のわかるもの)

★キャッチを録画したビデオはありますか?
 ある ない

★魚はどうされましたか?
 キャッチ&リリース タグ&リリース 持って帰った その他

JGFA事務局
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館 4F
TEL. 03-6280-3950 FAX. 03-6280-3952

JGFA日本記録、IGFA世界記録などに相当する場合は、使用したラインサンプル、仕掛け(フックを含む)などをご提出いただけます。フライフィッシングの場合、フライを付けたままでリーダー全体を、その他のカテゴリーではダブルラインやリーダー(使用した場合)を接続した状態のメインラインを、少なくとも5m(世界記録にも相当する場合は10m)ご提出願います。ルアーを使った場合、その写真も求められます(ない場合はスケッチも可)。

【誓約条項】

申請された記録データは、JGFA会員登録された氏名で公開することを承諾します。 釣り人署名欄：
 提出された写真は、特別の許諾なしでJGFA関連の広報物に使用することを承諾します。
 申請する魚は「私が一人でハりに掛け、一人でファイティし、関連事項全てがIGFAルールに基づいていること」を誓います。

日本記録・世界記録・参考記録に申請する場合は、こちらにも必ずご記入ください。



日本記録・世界記録・参考記録申請書

- ★JGFA日本記録、IGFA世界記録などに申請される場合は、必ず下記項目すべてにご記入ください。
(該当しない欄についても空欄にせず、「なし」もしくは「使用せず」とご記入ください。)
- ★世界記録申請魚の最低重量は、ラインクラス強度の1/2以上となっています。
日本記録申請の場合は、従来どおり1ポンド(453.59g)以上かつラインクラスの半分を目安とします。

追加記入分

釣り人の英字	釣り人氏名(英字):	
	住所(英字):	
ファイティングタイム	時間	分
フライロッド	ロッドの全長	cm
	エクステンションバットの長さ (リールの足の中心からバットエンドまで)	cm
ギヤフあるいはランディングネット	ギヤフあるいはネットのタイプ(いずれかに✓) <input type="checkbox"/> ギヤフ <input type="checkbox"/> ランディングネット	
	ギヤフあるいはネットの全長	m
	ギヤフロープの長さ	m
ボート (使用した場合)	ボート名:	
	メーカー名:	
	船の長さ(いずれかに○)	m・フィート
	フリガナ 船長氏名	
	船長署名:	
	船長住所:〒	
フリガナ 乗組員氏名:		
乗組員署名		
乗組員住所:〒		

ハカリ	はかった場所:	
	ハカリのタイプ:	
	製造メーカー名	
	保証を受けた最後の日付: 西暦 年 月 日	
ハカリを保証した人あるいは代理店	フリガナ 氏名:	
	署名:	
	住所:〒	
	計量立会人(釣人、船長、ウェイマスター以外の者) フリガナ 氏名: 住所:〒	
捕獲の証明 (船長以外の者、できれば2名以上)	フリガナ 氏名: 住所:〒	
	フリガナ 氏名: 住所:〒	
	捕獲を証明する人数	人

申請料

- JGFA会員サポート会員をのぞきすべて無料
- JGFAサポート会員
 - 日本記録6000円/件(オールタックルのみ)
(レギュラー会員登録費含む)
 - フィッシングコンテスト500円/件
- 非会員
 - オールタックル(日本・世界)記録10000円/件
(入会金およびレギュラー会員登録費含む)
 - フィッシングコンテスト・成人(女子含む)1000円/件
 - フィッシングコンテスト・ジュニア(16歳以下)無料

魚を釣った時点でJGFAサポート会員であった、ないし非会員であった方は、ラインクラス部門の日本記録および参考記録・スペシャルクラブ・ジュニア日本記録には申請できません。

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-22-8 日本フィッシング会館 4F TEL. 03-6280-3950 FAX. 03-6280-3952